

# 70~74歳の医療費窓口負担を1割に 和泉なおみ都議が条例提案

十二月十九日に行われた厚生委員会では日本共産党都議団が提出した「高齢者の医療費の助成に関する条例」の審査が行われ、和泉なおみ都議が提案理由を説明し、各会派に賛同を呼びかけました。



委員会場で条例提案の説明をする和泉都議 (12/19)

窓口負担が2割負担になった七〇歳〜七十四歳の方たちの医療費を、一割負担に据え置いたために差額を都が補助する内容になっています。

提案理由の説明の中で和泉なおみ都議は、七〇歳になると医療の外來受診は一・三二倍に増えることや、現役世代も七二・七%の人が高齢者の医療費の窓口負担は引き上げないほうがよいと考えていること等を指摘し、「高齢者への支援は、高齢者を親に持つ世代にとっての支援にもつながります。高齢者の安心を医療の側面から支えるとともに、若年世



「東京社保協」の陳情を審議する

代の厳しい暮らしを間接的に支えるために、本条例を提出します。」と、委員に賛同を呼びかけました。

## 自民・公明・民主らが反対

和泉なおみ都議は、二十二日の厚生委員会の採決でも、「今一度、医療費が高いために具合が悪くても我慢してしまう高齢者が多くいるということに、思いを寄せてください。少なくとも私たちが暮らすこの東京から、そういう高齢者をなくすために、力を合わせようではありませんか!」と可決を訴えました。

しかし、自民・公明・民主・かがやきは反対し、否決しました。

## 衆議院選挙での躍進に、 身が引き締まる思いです

突然の解散による総選挙。

日本共産党は八議席から二十一議席へと大きく躍進しました。与党が三分の二以上の議席を獲得する一方、沖縄では選挙区で自民党が一議席もとれず、民意に背く安倍政権に「オール沖縄」の審判が下り

和泉なおみ

ました。

日本共産党が獲得した二十一議席は、暴走する安倍政権に本当に対決できる政党として有権者が期待と信頼を寄せた証です。民主党に裏切られ、第三極も離合集散を繰り返して、うんざりしつつも、あき

らめずに日本共産党を選択した有権者が六〇六万人。その責任の重さを実感しています。国民の政治への信頼をとりもどすためにも「国民を裏切らない政党がある」ということを、示していく必要があります。

衆参合わせて三十二人となった国会議員団と、都議団、区議団、力をあわせて今年もますます頑張ります。

和泉なおみ都議  
1月の駅頭宣伝予定  
7:30〜8:30

16日(金)	亀有南口
20日(火)	高砂北口
22日(木)	青砥
28日(水)	立石
30日(金)	高砂南口
4日(水)	柴又
6日(金)	四つ木

日本共産党都議会議員

和泉なおみの  
さわやかレポート

NO.10  
2015.1.

発行：和泉なおみ事務所 TEL5671-0850  
葛飾区東立石 3-25-8 FAX 5671-0851

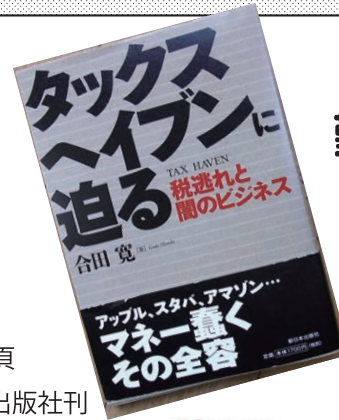


# 和泉なおみ事務所の主催で「タックスヘイブン」の学習会をします

1月24日(土) 午後2時  
勤労福祉会館多目的集会室  
参加費 500円

講師 **合田 寛** さん

和泉なおみ事務所主催で、金町在住の経済研究者の合田寛(ごうだひろし)さんが、話題の本「タックスヘイブンに迫る」を出版されたのを記念して、出版記念会を兼ねた学習会を開催することにしました。多国籍企業の税逃れの仕掛けを、パワーポイントをつかってわかり易く解説していただきます。



全 252 頁  
新日本出版社刊  
本体 1700 円



ことしも  
よろしく



田村智子参議院議員・葛飾区議団と一緒に

合田 寛  
「タックスヘイブンに迫る」を読む  
木村 ようじ

人間、書物を読んで新しい知識を得ると、喜びを感じるものである。ふむ、目からウロコとはこのことだ、などと感じ入ったことが多い。しかし、この合田寛さんの「タックスヘイブンに迫る」を読むと、新しい知識に山ほど接することができるが、喜びどころか「頭にくる」ことが多い。

アップルとか、スターバックスとか世界中でもうけている多国籍企業が「一円も税金を払っていない。なかでもアマゾン社というのは東京国税局が日本国内での事業利益に一四〇億円の課税をしたらアマゾン社は、日本に物流倉庫は置いてい

るが、顧客との契約の代金の授受などは、シラトルにある本社の子会社が直接行っているのです、日本への納税義務はないという、主張なのだ。なんでこんなことが可能になっているのか。そこに、多国籍企業と超富裕者との闇の犯罪者たちが、税逃れ装置として、世界中に張りめぐらせている「タックスヘイブン」という仕組みがある。

問題はこれが多国籍企業や超富裕者や犯罪者たちだけの問題ではなく、われわれ庶民ひとりひとりに関係する深刻な問題だ、と著者はいう。ここがこ

の本の大事どころだ。というのはこうした税逃れがいまや、世界経済の金融危機、世界各国の財政危機を引き起こす大きな要因となり、G20サミットやら、IMF(国際通貨基金)などの会議で、それぞれの国は財政赤字を減らすために、福祉などの予算を削り、消費税を増税しようなどと宣言をしているからである。

なぜ、「タックスヘイブン」をなくしましょう、という方向にならないのか。これがなかなか複雑怪奇といえましょうか、イギリス、アメリカ、ヨーロッパの歴史と政治がからみあっていて、結局、世界中の人民が団結して運動を起こすしかない、と途方もなく大きな課題を提起しているのが、本書なのである。

